

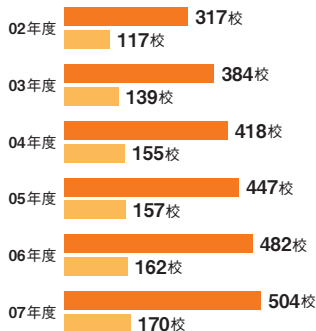
College Life Note

# インターンシップ

実施校が増え、  
内容も充実傾向

## ● インターンシップ実施校の推移 (大学・短大)

■ 大学 ■ 短大



出典：文部科学省「大学等における平成19年度  
インターンシップ実施状況調査について」

## ● 企業が実施するインターンシップ

インターンシップには、本文で紹介したように大学などの教育機関が企業・団体の協力を得て実施するタイプのほかに、企業・団体が直接学生を募るタイプがある。こちらは、通常、就職活動を始める直前の大学3年生が対象で、実質的に採用活動の一環となっているケースも多い。特定の企業の仕事を体験したいのなら、このタイプのインターンシップが有効だ。

企画立案やプレゼンなど  
踏み込んだ職業体験ができる！

生徒や学生が一定期間企業などの現場で職業体験をするインターンシップ。高校でも実施されているが、大学や短大でもインターンシップの導入はこの10年ほどで急速に進み、2007年度時点で全大学の約68%にあたる504校が実施している。その中身は高校と大学とどう違うのだろうか？

「大学の場合は、体験できる業種が高校と比べると多彩です。また、学生が企画やプレゼンテーションを行うなど、より現場の仕事に踏み込んだ内容のものが多いですね」（日本インターンシップ学会事務局長、北海道大学准教授／亀野 淳氏）

最近では、選択科目としてインターンシップを設ける大学が増加。実施期間は従来2週間程度が多かったが、1カ月などの長期にわたる例も目立ってきた。また、1年次など低学年から参加できる例も増え、海外インターンシップなど選択肢の幅も広がっている。

専門学校では、美容・福祉といった分野の場合、現場実習はもとより必須だが、最近では、前述のようなインターンシップを導入するビジネス系の専門学校も増えている。

「インターンシップは、職業意識の醸成、自分が進みたい業種についての理解、さらに理系などで顕著ですが、教室で得る知識と実社会との関連性を知ることや学習意欲の増進にもつながります。ぜひ積極的に参加して、卒業後のキャリアを考えるきっかけにしてください」（亀野氏）